

愛媛県ノーリフティングケア

普及啓発モデル事業報告

特別養護老人ホーム 樋谷荘

ノーリフティングケア推進チーム

高橋 智里

福永 正和

石川 慎也

施設概要



所在地: 四国中央市上分町

開設年月日: 平成元年10月1日

入所定員: 特養 70床

短期入所 9床

計 79床

平均年齢: 88歳(68歳~102歳)

平均要介護度: 4.03

要介護2 1名

要介護3 17名

要介護4 31名

要介護5 21名



はじめに

介護の現状：人員不足・道具不足・時間不足・入居者重度化



時間優先・無理してしまう・持ち上げての介助



インシデント発生・腰痛発生・身体的精神的負担増



対応してみたけど 少ししか変わらない。



変えたい。変わりたい。



ノーリフトケアの導入



介護職員の状況 (導入前アンケートより)

- ・年齢層20代～30代の若いスタッフが大半(82% : 26名/32名)
- ・腰痛ありが47%
(職場での腰痛が過半数で腰痛が継続している方が大半)
- ・移乗場面での負担が大きく、前かがみや持ち上げるなど移乗姿勢に伴う負担が大きい。
- ・用具導入に認識はある(71%)が不足を感じている。



福祉用具の導入一覧

福祉用具	数
車いす(モダンシリーズB-style)	2
ターンテーブル	3
イージーグライドS	2
移座えもんシートMLサイズ	2
マイバディ腕まくらプラス	1
マイバディイージーヘッド	1
ポジショニングシート(セット)	1
車いすクッション(タカノクッションR タイプ6)	6
車いすクッション(アウルREHA3Dハイ)	1
マスターケア フレックスボード&シート	1
ウェルピー(ポジションクッションジャンボ)	1
ウェルピー(ポジションクッションウェーブ)	1
ウェルピー(ポジションクッションブーメラン小)	1



講習後・施設内職員への伝達

機器の使用を通じ、『職員・入居者様の安全を守ること』に重点をおき、身体のしくみ・身体の使い方・作業姿勢も伝えることでケアの質を改善することを目的に実施。

(単なる道具の使い方にならないように)

(手段)

1. 研修動画の視聴
2. 機器の使用方法を各職員に個別に
介護現場にて直接伝達指導
3. 月に一度のケア会にて少人数研修を実施



直接伝達指導場面

フレックスボード&シート



移座えもんシート



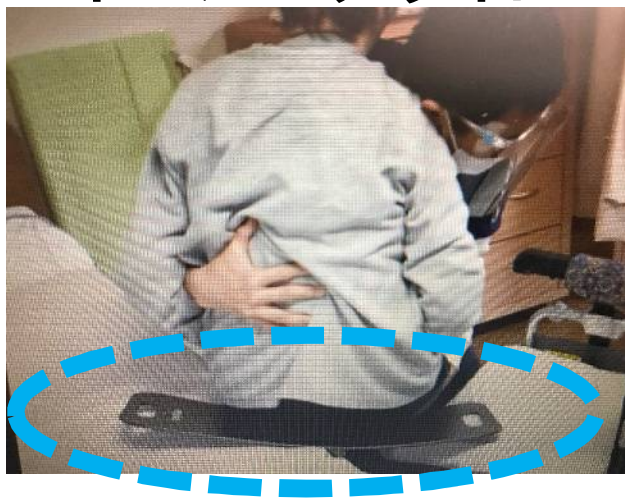
- ①理学療法士が適合評価
- ②褥瘡委員会メンバーの介護職員を中心に協働で実施
- ③「この人にこれをこう使う」を他の介護職員へ伝達し、協働で実施

導入機器使用場面

移座えもんシート



イージーグライド



ターンテーブル



ポジショニング
シート



ポジション
クッション



導入後の変化

* 移乗介助時の傷・あざ発生件数
導入前 (R3.4～R3.10) 平均 8.7/月



導入後 (R3.11～R4.1) 平均 4.0件/月

移乗介助における傷・あざは減少傾向

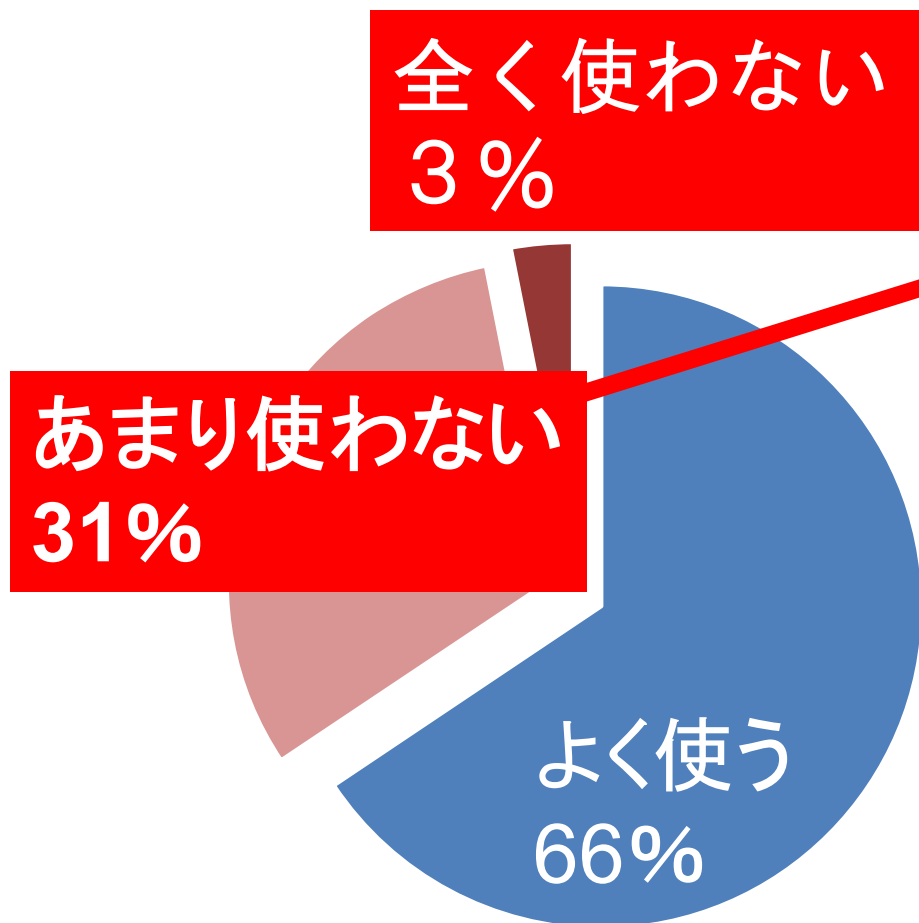
しかし

機器導入後も機器未使用時の傷・あざの発生は散見される。
機器の使用・理解は不十分と推察。



介護職員による導入機器の使用状況

(導入後アンケートより)



使えていない理由

①使い方

よくわからない物がある

自信がない

研修していない

②利用者に対して

全員に使えない

あう・あわないがある

③忙しい

バタバタしてて忘れる

使用に時間がかかる



介護職の機器導入による負担の軽減状況

(導入後アンケートより)

軽減したと感じる場面

- ◆ベッド上移動
- ◆移乗介助
- ◆体位変換
- ◆トイレ介助

楽になった。
スムーズにできる。
軽い介助でできる。

持ち上げなくなった。
入居者様の負担も軽減したと感じる。

全く軽減しな
かった

16%

軽減した
31%

やや軽減
した53%



研修で学んだ事を実践できているか

(導入後アンケートより)

内容が理解できておらず、実践もできていない

3%

内容を理解し実践できるようになった
13%

内容を理解し少しずつ実践できている
84%

日常業務への反映内容(抜粋)

◆介護の姿勢の見直し

負担軽減の姿勢を意識するようになった。

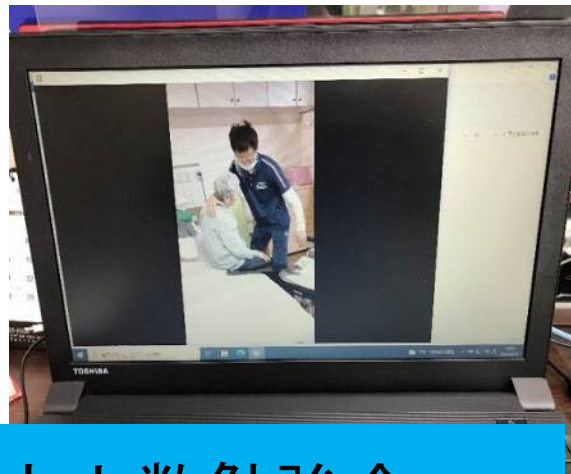
◆利用者の機能にあった福祉用具を適切に活用するようになった。

◆ノーリフティングケアの考え方を今後も継続していくべきだ。



課題と対応

- ① OJTでの個別伝達では機器使用や身体の使い方などの理解が不十分（コロナ禍・・・全体講習は当面困難）
- ② 機器を誰にどう使えばよいかわからない
- ③ 機器を使いたいが、時間が無い、使いたいいきにならない



少人数勉強会
動画研修の活用



使用できる人
使用する機器の表示



使うところへ配置

ノーリフト新聞



まとめ

ノーリフティングケア・機器導入

負担感少し軽減しインシデント減少

【課題】

- ◆身体のおくみ・身体のおい方の理解は不十分さあり
- ◆機器の使用増加も十分に使いこなせていない

【対応】

- ①少人数勉強会を現場だけでなく施設全体で持続的に企画・運営
- ②機器使用やボディメカニクスを活用した介助場面の動画30本製作
- ③機器使用リスト作成・機器配置の工夫、ボディメカニクス新聞作成

【今後】

定期的にアンケートを実施し、ボディメカニクスの理解と介護技術の向上についての評価を行い、施設全体としてPDCAサイクルを確立する。

おわりに

ノーリフティングケアの芽が育ち始めました。
道具（機器）の力も借りつつ、
栄養（身体機能のしくみ等）をしっかりと与え、
樋谷荘になじませ、大きな根を張り
安心・安全の花が咲き
笑顔の実がたくさんなる様な
大きな木を
育てていければと思います。

そして、
森になるように・・・

（グループのほかの事業所にも伝えていきます。）

